

慶応三年四月九日より慶応三年四月十三日まで

P8310673right

此藤六方へ酒價(*1)を為持遣し、洋画を投ず、詰所出勤、沓岐守殿英公使御引合有しに付

小休所

本行寺へ出向居る、御随従いたす、一時より三時過ぎて相濟(当所居当地伊吹屋一条本行寺へ一同引取、此度の

勤勞に付、思召を以金式枚拝領物、御事取添沓岐守殿、御直御渡、良膳殿作殿長鯨丸

御船にて御東帰蘭公使も右御船拝借、本夜十一時半宿寺出立加藤も本夕同船乗組

十日巳(辰) 晴漸薄陰

広沢悦(喜)来る面す、昨拜領物御礼として惣名代を兼沓岐守殿御旅亭へ出る、第一時御同人

英館へ御出夕談判有し(図州表本行寺へ御出迎へいたす、本日は江図兩名随従、英サトウへ兵庫

石炭直組にて、

の儀に付、引合に行き大小監察連名にて兵庫表原弥十へ御用状出す、江府より御用状

(四日附)内状等届く(平安状也)

十一日午 陰午下より雨

P8310673left

詰所出勤、第三時より沓岐守殿英館へ御出御談判有し、本行寺へ御出迎いたす、本日は

但図芸三名

随従(両居留地の義主の趣、敦賀港一見)地面(行一泊の義但図兩人へ申出る、兵庫にて

にて英船へ売渡石炭)義)取纏り段原弥より申来る

十二日未 雲漸晴

江連加州より頼(肩駕小笠原(蔵)方へ為持返し遣す、英公使昨日申出し敦賀港行の儀に

付坂(本亭

来る、詰所出勤、英公使昨日出し義に付、サトウと両回談判を重ぬ、右義に付伊賀守殿

俄に御下

坂有し、沓岐守殿より無(使を以、御呼)有し、即時来(半過(二時前)帰舎(大隅近江国方来

舎方但馬も)より来る)

十三日申 晴

詰所出勤、賀老両客老各公使尋問(実は英の京地行さし留の義主也)として御出に付、本行寺へ

御出迎いたし英亜へは随

従、仏へは江芸(随従す、右両客老の故により本夕英館晩食に列し)て、事時の談に

およぶ事

*1: 價(か)、あたゝい、値

印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

公私日載/旗本柴田貞太郎